

仲間と試行錯誤 探究の先に大学

大学主催のコンテストも入試の入り口に

各大学が主催する趣向を凝らしたコンテストの数々。高校生と大学との接点となり、中には入試に直結するものもある。

細くそびえ立つタワーがグラグラと揺れる。その様子を、固唾をのんで見守る高校生たち。「ああ。倒れちゃいました」振動に耐えきれず、タワーが横にばたきと倒れる。塔のつべんに載せられているのは、1枚1キロの重り。それを支えているのは、なんとつまようじだ。

「つまようじと木工用ボンドだ。横に作ったタワーです。上に載せる重りを一枚ずつ増やし、振動を変化させていき、耐震性を競います。最後まで倒れなかったタワーが優勝です」そう説明するのは、熊本県にある崇城大学入試課の松田建志さん。同大では、2006年から「つまようじタワー耐震コンテスト」を主催している。

年度によって規定は変わるが、普通科高校の場合、今年は高さ50センチ以上、重さ80グラムまでの「つまようじタワー」に重りを載せ、床に振動を与えて勝ち残りを競う。もともとは建築学科の学生を対象に始まったコンテストだが、11年の東日本大震災を機に高校生部門も設立。津波や地震で倒

壊した建物が大きな被害を与えている様子を目の当たりにし、建築や耐震構造に関心を持つ子どもたちが増えるのではないかと、の思いがあったという。

建築学科志望者も増加

仲間と試行錯誤してほしいと、コンテストには2人1組での参加が必須。多い年には、100組近いチームが出場する。組み立てたタワーを持ち込むため、熊本県近郊の学校がほとんどだが、工業科で学んだ生徒のほか、普通科や定時制、通信制高校と幅広い。多くの高校生と接し、コンテストを重ねるなかで、建築学科を志望する受験生も増えていっ

入試に活用できる 大学のコンテスト

崇城大学 探究活動アピール選抜 つまようじタワー 耐震コンテスト高校生大会

1辺30センチの正方形の合座に、つまようじを木工用ボンドで接着してタワーを製作。振動を与え、耐震性能を競う。探究活動や課題研究に取り組んだ高校生を応援する「探究活動アピール選抜」でも活用できる

関西学院大学 グローバル入学試験 関西学院 世界市民明石塾

グローバル社会での活躍を目指す高校生らが現役国連職員らの話を聞き、ディスカッションなどを通して課題解決力やコミュニケーション力を養う3日間のプログラム。参加費がかかるが、修了すれば入試の出願要件を満たせる

立命館大学総合型選抜 UNITE Program— 学部指定単元 AI学習プログラム

AI学習教材「atama+」を使い、学部が指定する単元を学習、習得すると総合型選抜に出願可能。「AO選抜入試への新しいチャレンジメント」と銘打つ

慶應義塾大学 夏秋 AO 福澤諭吉記念 全国高等学校弁論大会

「弁論の甲子園」とも呼ばれるハイレベルな大会には、全国各地から高校生が出場。最優秀賞受賞者は総合政策学部・環境情報学部AO試験の1次選考免除対象となる

関西大学 AO入試 関西大学ビジネスプラン コンペティション (KUBIC)

独創性や優位性、実現可能性などを考慮したベンチャービジネスプランを考え、プレゼンなどで競い合う。優勝または準優勝した受験生は商学部のAO入試に出願可能

武蔵野大学 総合型選抜 武蔵野文学賞 (高校生部門)

2012年に創設された高校生部門では、昨年度は小説・俳句などを合わせて316の応募も。推理や青春、恋愛、SF、ライトノベルなどジャンルはさまざま。応募者は、文学部の総合型選抜入試の出願資格を得ることができる

「The Pandemic (パンデミック)の先にある新しいつながり」。

270人を超える応募者の中から、15人の高校生が本戦に出場した。コロナ禍の影響でオンライン開催となったが、画面越しに熱気が伝わってくる。

応募者の13%が進学

な学生と接点を持つと取り組む大学は他にもある。右の一覧。関西学院大学では、国際的な活躍を目指す受験生を対象にした「グローバル入学試験」を取り入れている。その受験資格の一つに、大学が主催する「関西学院世界市民明石塾」の受講がある。

3日間のプログラム

出る年もあるという。明石塾の参加を経て、入試に挑戦する生徒も多い。同大入試課担当者はこう説明する。「高大接続の一環として16年度から開催しています。多い年度では、10人超の受験生からグローバル入学試験への出願があります」

上位者は1次選考免除

慶應義塾大学でも、総合政策学部や環境情報学部のAO入試を受ける際に、同大関連の「三田文学新人賞」や「福澤諭吉記念全国高等学校弁論大会」などで一定の成績を収めた受験生に1次選考を免除。中央大学でも、環境問題がテーマのコンテスト

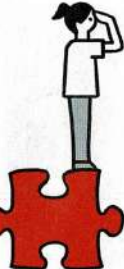
「高校生地球環境論文賞」(21年度に終了)の受賞者には、経済学部の高大接続入試の出願資格

が与えられた。入試のアドバンテージにはならないものの、受験生との接点づくりや工夫を凝らすのは、上智大学だ。

「英語力はもちろん説得力や独自性など、とてもハイレベルな戦いです」

そう説明するのは、同大言語教育研究センターの藤田保センター1長だ。国際性の特徴とする同大では、11年からコンテストを実施。これまでに2千人以上の高校生が応募してきた。

英語の弁論大会という、海外経験が長い生徒の参加に制限がかかるケースも多い。だが、



「英語の弁論大会という、海外経験が長い生徒の参加に制限がかかるケースも多い。だが、

英語の弁論大会という、海外経験が長い生徒の参加に制限がかかるケースも多い。だが、



崇城大学主催の「つまようじタワー耐震コンテスト」。建築学科を志望する受験生も増えたという

「英語の弁論大会という、海外経験が長い生徒の参加に制限がかかるケースも多い。だが、

英語の弁論大会という、海外経験が長い生徒の参加に制限がかかるケースも多い。だが、

英語の弁論大会という、海外経験が長い生徒の参加に制限がかかるケースも多い。だが、

photo 崇城大学提供

illustration 添田あき